

LIVE: フォーンズライチ 1991. 2. 4 渋谷NHKホール



「余裕」。フーズライチをきいていて感じたことは、「余裕」。いまきいているこの演奏もすごいし、すごく心にひびいてくるんだけど、それでもやっぱり余裕がある。もっと別の音楽の世界が絶対あるにちがいない。そう思わせる。それと「真面目」。はじめからおわりまで、ずーっと同じ高さで保たれている「真面目」。だから、すこしくたびれた。クリス・デガーマというギターの人がかっこいいと思った。

「大体、ソングライターだったら既にも書いたものと似ないようには心掛けるのは当然のことだし、他人の好みに合わせて自分の意図を曲げるわけにはいかない。外音のライターを起用するつもりは全くないんだ。5人の生み出すマジックこそ何よりも重要だと思っているからね。だから新しいものを作るためには、自ら意識的にチャレンジしていくことが「必要な事」 クリス・デガーマ (BURRN' 1990. 9月号より)

←左からクリス・デガーマ、エディ・シクソン、ジェフ・テイ、スコット・ロツンズ、マイケル・ウルトン (G.VO, KEY) (B.VO) (VO, KEY) (DS) (G)

何となく、ここから来るのに9年間もの地獄を体験してきたから、長い下積みを経てホッとしているよ。クリス・デガーマ (同誌より)

LETTER: to 山本祥子

1990年12月5日 NHKホールにSLAYERというアメリカのバンドをききにきました。原宿駅を出ると代々木体育館へむかう人たちが多勢、歩道橋を渡っています。「長瀬剛」大きな赤いしゅうをした白いサテンのハッピをきた男の子が2人、屋台でそばを食べているので、体育館で長瀬剛のライブがあることがわかりました。SLAYERのライブが終わって、体育館に下った道を馬車の方へ坂へいくと、中から長瀬剛の歌う声がかすかにきこえてきて、そしたら長瀬剛がやっていたんだと思いました。私がSLAYERに深く感動していたとき、道路一本へだてたところで長瀬剛が歌っていたのです。1987年2月25日大阪城ホールで「STAY DREAM」の追加公演を見たのを最後に、私は長瀬剛をきかなくなって、それから4年たって、長瀬剛が歌っているそばをSLAYERをききた私が溢りかかる...

この2日後、未知のあなたから手紙がきたのです。私が長瀬剛のファンだときいて「友達になって下さい」と。なんという不思議。あなたからの手紙は、4年以上前の私にあてて書かれているみたいなのです。とりあえず「今は長瀬剛はきいていません。そのうち手紙に書きます」とだけ書いたハガキを出しましたが、その約束をはたそうと思って4年前のノートを読み返してみました。

1986年

12月3日: 私が受けとめているのは長瀬剛が現実の生活の中で、人生で格闘したところから出てきた歌の中の「長瀬剛」。今回のアルバム「STAY DREAM」はまさに長瀬剛の人生論。発売以来、ずーっときいているのだけれども、あれは私にあてられた長瀬剛からの手書きの手紙のようなもの。自分の心も、自分の生き方も、自分のことばで書いた手紙をもらって、私は返事を書きたいと心から思う。返事を書くことについても「あのアルバムはよかったぞ」と長瀬剛にファンレターを出すことじゃない。私も自分の人生で格闘した中から「私」をつくり出すことである。今までは長瀬剛の歌う「長瀬剛」に「おげまされてきた」。「長瀬剛」⇒私、これだけだった。私が「私」をつくり出せば「私」⇒「長瀬剛」となって、それが返事になるのだと思う。

12月31日: 「STAY DREAM」外出するとき必ず「ウォークマン」をきいている。またびに深まるし、自分の心のすみすみまで心が重なる。3年前に西武球場のライブのビデオを見て以来、このライブのレコードと、そのあとに出た「HOLD YOUR LAST CHANCE」、「HUNGRY」、ときいてきて、この10月に「STAY DREAM」、「STAY DREAM」を出すまでの長瀬剛に対しては、いま思うと私の中に余裕があった。歌の中の長瀬剛に重なるのは大昔自分が過去の私だ。遠慮の距離感があった。それが「STAY DREAM」で一挙に距離感が「ちぢまり」、私がこのまんまでいると必ず追いつかれてしまう...。それを感じさせるSTAY DREAM、1987年

1月16日: 10月22日に「STAY DREAM」が出て、ズーッときいて、11月20日に広島のコナートにいらって、またズーッときいて、12月17日名古屋のコナートにいらって、それからまたズーッときいて、1月12日に武道館、そしてまたズーッときいている。12日のコンサート、アンコールで、シャツとジーンズを着かえてステージに立った長瀬剛はとて大きく見えた。

LIVE: 横関敦 1991. 1. 10 パワーステーション

よかった! パワフルで繊細な。三葉江戸蔵もいっしょだったし、なによりもDOOMのベースの人がいっしょだったのがうれしかった!!!

2月12日: あんまり「長瀬剛」に「つんのめ」って感じがすごく狭くなっていた。流れている現実の中で一人立ちずくんでいる自分が外から見ずに、自分のことばかり想っていた。自分のことばかり想っているから招待券を頼んだりしちゃったわけ。やっぱりあのことがこたえた。1月12日の武道館のあと、それが「ずー」と尾をひいていて憂鬱消沈の毎日。まだ「STAY DREAM」はきく気になれない。どう感じるかわいから。2月25日に大阪に長瀬剛をききに行くのだけれど、それまでにどんなふうになっているのだろうか?

2月20日: きくうさぶりにテープをとりながら「STAY DREAM」をきいた。1か月くらいきかなかつた。そのあいだきいていたのはCOBRA、そして今日からTHE BLUE HEARTS。THE BLUE HEARTS すごい。すばらしい明るさ。ことばが地についている。

3月7日: 大阪から帰って10日たった。2月25日の大阪城ホールで長瀬剛のコンサート。武道館と同じ円形のステージ。テレビカメラがステージのまわりを回っているし、第1の時間帯はステージの上にカメラを回す人がウロウロするし、のべ「ソヨゾー」を叫ぶ者がいるし、おまけに私の前の席の女の子たちが「ソヨゾー」と「ギャー」と叫ぶが、なかなか集中できなくて残念だった。私の中で「長瀬剛」が「あ」まいいになっていたことも関係しているかもしれない。

12月9日: THE BLUE HEARTS や JUN SKY WALKER(S) のライブにいったら、ロープをきいたりすることで、苦しい日々をどうにか昔をあげずにしのいでいて、そんなふうを支えられて、いい思いができていっているのに、受けとる「ばかり」でこころから返すことができないものが何も無い、と想っていた。けれども「雪やこんこん」を見て、「返すことがどういうことかわかった。しっかりと受けとれば、それが返すことなんだから、ちょうど1年前に、長瀬剛が現実の生活の中で、生身のからだで感じたことを歌にして、その歌の中にあるのが「長瀬剛」で、私も現実の中でちゃんと生きて「私」をつくるのが「長瀬剛」に返すことだと思ったが、「私」をつくるってどういうことかわからなかった。

「私」をつくるってどういうことなのか考えることが全くできないうら、やと立っているだけ、という日々をすごして、一年たってわかったことは「受けとることが返すことなんだ」ということ。やと立っていられるという日々をすごして生きている中で、ふみとどきっていればこそ感じとれるものを感じれば、暗い客席にすわって、私の虫で、自分の心だけになっている私が「私」のついた「私」で、それが返すことなんだ。

ノートを読み返してみよう。砂時計は、さかさまにすればまた同じ砂が落ちる。過去の出来事は砂時計の砂ではない。砂時計をさかさまにするように過去を思い返すことはできない。おちていった砂はすぐに、宇宙に散っていらして、現在という瞬間は、砂時計のまんまの、あの細いところを砂が宇宙にこぼれ落ちてゆくところ。

長瀬剛はきっと現在でも STAY DREAM、そして、私も STAY DREAM、そして、あなたも STAY DREAM。

LIVE: DOOM 1991. 1. 13 パワーステーション

1/10の横関敦、この日のDOOM、1/6 BAKI+DOOM というわけで、週間のうちに3回もDOOMのベースの人のステージが見られた!!! やっぱり DOOMでやっつるの一番!

①チケットを買い努力をせずに招待券を入れたというところ②STAY DREAM (1986. 11. 10 ライブ) ③井上文生制作「まっせの空居